

第55回 Inter BEE 2019
～ INTER BEE FORUM (概要) ～

為ヶ谷 秀一



(写真1) Inter BEE 2019 オープニングセレモニー

1 : はじめに

Inter BEE 2019 (第55回) は、2019年11月13日(水)～15日(金)の3日間、千葉市幕張メッセで開催された。1年前の2018年12月1日には、衛星放送(BS)による新4K・8K本放送が開始された。インターネットによるテレビ放送の同時配信も近く予定されており、ネットによる動画配信事業の展開等、急速にメディアの多様化が始まって来ている。今回のInter BEEでは、2020年東京オリンピック・パラリンピックの開催に向けた取り組みと共に、2020年以降のメディアの動向を見据えた議論が展開された。また、米国で開催されたNAB ShowやCESなどの動向も参照しながら、Inter BEEでの議論の方向性を見て行く必要がある。

昨年のNABのテーマは、“Every Story Starts Here”(全てのストーリーは、此处から始まる。)であった。メディアおよびエンターテインメント業界の革新的なストーリーを伝える展示が行われ、人工知能(AI)、

クラウドコンピューティング、次世代ワイヤレス、eスポーツ、コネクテッドカーなどの次世代テクノロジーが集中して展開されていた。

2020年1月に米国ラスベガスで開催された最新のテクノロジーを紹介するCES2020では、メディアやエンターテインメントの世界も次の世代に向かって動き出しているとレポートされている。

インターネットによるスマートフォンやタブレットによる動画視聴の拡がりや、8Kディスプレイによる高品質コンテンツの視聴環境の拡がりなどと共に、5Gによるネットワーク環境の進展と共に多様化するコンテンツ分野の動向も捉えておかなければならない。

本稿では、INTER BEE FORUMでの「基調講演」を抜粋して、その概要を報告する。

2 : 「INTER BEE FORUM」
(基調講演等)

Inter BEEでは、機器展示会と共に放送を含めたコンテンツ・メディアの最新動向



(写真2) オープニングの挨拶をするJEITA会長 遠藤博氏

を議論するINTER BEE FORUMが国際会議場で開催されており、世界に向けた最新情報の発信を目的とした、多くの基調講演や特別講演などのセッションが会期中終日開催されている。

INTER BEE FORUMでの講演のテーマについては、「INTER BEE FORUM 企



(写真3) 基調講演をするNAB会長 ゴードン・スミス氏

ン」をトピックテーマに、以下の4人による講演が行われた。

(1) ゴードン・スミス氏

全米放送事業者協会 (NAB) 会長

Inter BEE への参加は2回目となる。「放送におけるイノベーションを活用することで、最高のスポーツ・コンテンツを提供することが出来る。」とオリンピックの機会に、放送メディアの進化に大きな期待を寄せている。例年 NAB Show における NHK を始め、日本の企業、研究機関により最先端のテクノロジーが展示紹介されることに謝意を示された。「8K によるオリンピックのパブリックビューイング (PV) により、正にスポーツ・コンテンツを最適化することが出来る。メディアにおけるイノベーションは、スポーツによって視聴者に最高のコンテンツを放送することが出来る様になってきている。米国では、ATSC3.0 方式による次世代テレビへの取り組みが進められており、ブロードバンドネットワークとの連携も広がって来ている。また、テレビジョン技術の進化と共に、ラジオへの取り組みも重要であり、モバイルへの FM チップの組み込みなどにより、緊急放送などへの対応と共に、テレビとの連携による新しいコンテンツも生まれて来ている。人工知能(AI) や VR/AR などテクノロジーの進化は、スポーツ放送を大きく変えることに寄与し、よりパーソナルな視聴者へのサービスなども期待される。ローカル放送によるスポーツ・コンテンツを通して、地域の人々との連携を深めることにも寄与している。東京でのオリンピック放送が成功することを期待する。」とし、これからも NAB と Inter BEE の連携を深めて行く述べた。

画ワーキンググループ」のメンバーによって、今、最もトピックスと考えられるテーマを選択して企画・構成されており、Inter BEE 2019 に集中するメディア関係産業全体を俯瞰したテーマとなっている。

特に今年は、来年のオリンピック放送に向けて、「スポーツ」をメインテーマとして、基調講演や展示などが行われた。

「オープニングの基調講演で提起された主なテーマ」

基調講演の中では、メディアを取り巻く現状を的確に把握する中で、将来に向けて考えて行かなければならない課題と共に、今後の取り組みに向けたテーマが提起されていた。2020年東京オリンピック・パラリンピックの開催の機会を捉えて、イノベーションがスポーツ文化の発展とテレビの役割を高めることに寄与することが期待され

ている。テレビにおける放送とネット連携が、新しいメディア環境を作り出して来ている。そしてそれは、IP化によりコンテンツ制作の環境をも変革しつつある。イノベーションと共に、何よりも創造的なコンテンツを生み出すクリエイティブな人材や、IPネットワーク技術者の育成が、最も重要な課題となっていることが提起されていた。この様な議論が行われていたことを改めて把握すると共に、この春開催される NAB などの動向を捉え、将来に向けた取り組みの方向性を見極めて行く事が大切であると言える。

各基調講演の概要を順次紹介する。

「Keynote Speech : Toward 2020」

今年のオープニングにおけるキーノートは、「スポーツとそれを伝えるイノベーショ

ますます多様化するフィールド で応える柔軟さと確実性

FB
FourBit
株式会社
フォービット

〒358-0014
埼玉県入間市宮寺 2720
TEL : 042-934-7720
FAX : 042-934-5664
TEL : 042-935-0551 (営業部直通)
URL : <http://www.fourbit.co.jp>

PMX-1210

12 × 10 ポータブルデジタルオーディオミキサー
税抜価格 ¥ 1,950,000



- アナログライクな操作性
見た目のままの安心感
- EIA19 インチラックに
実装可能
外形寸法 W420 ×
H160 × D460
- カスケード接続による入
力チャンネル増設
- AC 電源と DC+12V 電
源併用によるリダンダン
ト動作
- マスターアウトのラウド
ネス計測機能
- TB マイク、モニタース
ピーカー内蔵
- ビデオ同期 / ワードク
ロック同期 / デジタル入
力同期



(写真4) 基調講演をするスポーツ庁長官 鈴木大地氏



(写真5) 鈴木スポーツ庁長官は、スポーツにおけるテクノロジーの活用を期待。

(2) 鈴木大地氏 (スポーツ庁長官)

「他産業との融合によるスポーツの未来」と題するテーマで、次のような講演が行われた。

「スポーツの素晴らしさは、ビジネスにもつながる。国の施策として、スポーツ基本計画が、2017年より5年計画で進められている。そこでのキーワードは、スポーツで「人生が変わる。社会を変える。世界とつながる。未来を創る。」である。スポーツによる産業促進を、国の成長戦略の一つに加えている。「SOIP」(スポーツオープンイノベーションプラットフォーム推進会議)というオープン・イノベーションのプロジェクトを推進している。ビジネスの視点から、スポーツの魅力をつかえた、新しい取り組みを進めている。放送メディアにも、大変親和性の高いものと言えるので、多くの参加を期待している。

また、スポーツの魅力を高める上でも、

テクノロジーとの連携が大切であり、「超人スポーツ」や「自由視点映像」によるトレーニングや観戦などにも、新しいテクノロジーの活用が図られて来ている。SOIPへの取り組みにも積極的な参加を期待する。」と述べた。

※ SOIP : スポーツ庁ホームページ
https://www.mext.go.jp/sports/b_menu/shingi/025_index/index.htm

(3) 緒方一貴氏

(日本放送協会 放送技術局 局長)

「Beyond2020 放送技術の進化は止まらない。」

「4K・8K SHVによる番組制作、オリンピック放送の歴史、2020年オリンピック放送におけるサービス、2020年から先に向けた取り組み」の4つのテーマで、これからのNHKの取り組みを紹介した。

SHVによる本放送が開始されてから1年になるが、4K・HDRによる効率的なコ

ンテンツ制作と共に、2K・SDRへのコンバージョンに向けた手法の開発により、効率的なコンテンツ制作を進めている。SHV用の新しい機材開発も進めており、衛星や光ネットワークによる伝送を可能とするコーデックや、8Kカメラシステム、スローモーションなど新しい機材開発も進めている。

1964年の東京オリンピックの時も、カラーテレビや、衛星中継システム、スローVTR等、多くの新しい技術開発が行われた歴史を紹介し、オリンピックが放送技術の進化に大きく寄与して来ていることを改めて意識している。2020年東京オリンピック・パラリンピック放送については、OBS(オリンピック放送機構)の制作する4K国際信号により番組制作を行い、2Kへ変換して地上波や衛星により放送する。また、デジタルサービスとして、スマホやタブレットに向け、放送と連携したコンテンツサー



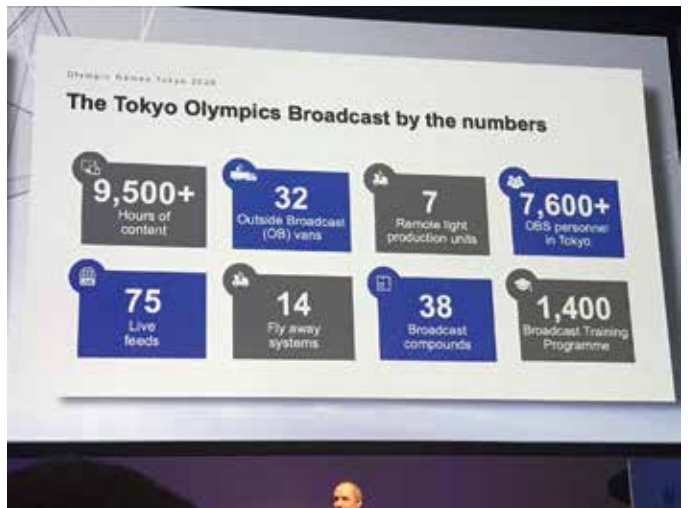
(写真6) 基調講演をするNHK放送技術局長 緒方一貴氏



(写真7) NHK 緒方氏は、10年、20年後を目指した未来のメディア技術への取り組みを提案。



(写真8) 基調講演をするOBSのソチリス・サラモーリス氏



(写真9) OBSのソチリス・サラモーリス氏は、東京オリンピックの放送の規模を示す。9,500時間を超えるコンテンツ、7,600人を超える要員数など。

ビスも行う。ユニバーサル・サービスとして、ロボット実況やロボット字幕などのシステムにより、障害者へのサービス提供にも取り組む。IPによるリモートプロダクションの技術も進化して来ており、効率的なスポーツ番組制作が可能となって来ている。オリンピック放送でも活用する計画である。5GやAR・VR等の活用も進めており、これらの蓄積を活かして、一人ひとりの体験を拡げる放送に向けて、10年後、20年後を目指した取り組みを進めていきたい。」と述べた。

(4) ソチリス・サラモーリス氏(オリンピック放送機構(OBS)最高技術責任者(CTO))「TOKYO 2020の映像制作」

オリンピックの放送コンテンツ制作を行うOBS(オリンピック放送機構)の役割について次のような講演が行われた。

「OBSは、18年前にIOC(国際オリンピック委員会)によって設立されたオリンピック放送のホストブロードキャスターである。世界の放送局などにコンテンツを提供する、オリンピックのストーリーテラーである。現在の高度な技術を駆使して、コンテンツを事業者配信するためのファシリティの整備や要員の訓練などを進めている。ブロードキャスターとして、より多くのコンテンツを、より良質に、そしてよりスマートに提供することを目指している。

(Delivering More, Better and Smarter) OBSは、MDS(Multi Channel Distribution service)と言うファイルベースのコンテンツ配信サービスにより、4K/HDRによる選手のインタビューやニュース素材などのコンテンツやデータを常時提供

するシステムにより、リモートでも効率的なプロダクションを事業者提供するシステムを構築している。これ等を実現するためにOBSのクラウドを設けて、コンテンツ配信のプラットフォームとしている。

3: この他の基調講演

基調講演は、会期中数多く講演やパネルディスカッションが行われるが、誌面の関係で、此处では基調講演のタイトルのみを紹介する。「基調講演」の講演者及びセッションテーマ全タイトルは、以下のURLで参照できる。

<https://www.inter-bee.com/ja/>

[forvisitors/conference/forum_keynote/](https://www.inter-bee.com/ja/forvisitors/conference/forum_keynote/)

「基調講演」

- ・スポーツ中継のフィロソフィー～TOKYO 2020に向けて
- ・デジタルテクノロジーでさらに輝くこれからのスポーツ
- ・テレビにおける放送とネット連携の現状と今後の動向
- ・映像の外側で、すべてがメディア化する時代のアクティビスト達
- ・5Gセッション2019
- ・IP化する放送技術と導入事例

・日本のクリエイターよ。越境せよ！
～世界に誇る日本の技術力・精神力。今の日本の映像業界に何が必要か？～

4: おわりに

来年56回目となるInter BEE 2020は、東京オリンピック・パラリンピックが終了した後、2020年11月18日(水)から20日(金)の3日間、幕張メッセで開催される予定である。

Inter BEE 2019の機器展示会を始め、その他のイベント等の詳細は、本誌の別稿やInter BEE 2019オンラインWEBページなどに掲載されている。

<https://www.inter-bee.com/ja/>

謝辞：(資料提供) 一般社団法人電子情報技術産業協会(JEITA)

一般社団法人日本エレクトロニクスショー協会(JESA)

Hideichi Tamegaya
メディア・テクノロジー・コンサルタント

映像スタジオ施工

多様化するデジタル映像環境に対応、映像スタジオ施工なら豊富な実績、直営システムに依る徹底したコストダウンを実現する



MA室 ブース 各種 編集室

新設、リニューアルに関わらず何でもご相談ください。

～映像・音響専門で
41年～

(映像・音響・防音・建築・設計・施工)

一級建築士事務所

高橋建設株式会社

本社 〒216-0032 神奈川県川崎市宮前区神木1-7-8

TEL044-853-0547 F044-852-1588

(社)日本放送プロダクション協会会員 / (社)日本商業スタジオ協会会員
(社)日本音響学会会員

<http://www.takahashi-kensetsu.co.jp>
info@takahashi-kensetsu.co.jp